

# 飛翔

発行責任者  
平塚MAC  
池田忠宏



新春メッセージ

## 平塚MAC二十周年に向けて

会長 池田忠宏

みなさま明けましておめでとうございます。お健康やかに新年をお迎えのことと思ひます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

現体制になって二期目の新年を迎えることが出来ました。会員皆様のご協力に感謝致します。ありがとうございます。

昨年は、国内外共に多岐にわたる出来事が続発した年でした。特に各地での自然災害は類を見ない被害で生活への影響も甚大でした。我々高齢者を取り巻く環境は、一段と厳しさを増し、日常生活・厚生面など対応を迫られております。

さて、我が平塚MACに話題を移しますと、昨年の年始挨拶で「飛翔」が二百号となるお話を申し上げましたが、来年二〇二〇年は、

### 歩く会

#### 「明治記念大磯邸園

#### 明治百五十年記念公開」を訪ねて



平塚MAC「発足二十周年」を迎えることになりました。来る年に向けて充実した活動を展開して行きましよう。各部会では、活性化を

会員の高齢化は、必然的ではありますが、平塚MAC各部会活動を通じて、より健全な生活に反映出来ればと思っております。

会員は昨年まで六十三名と伸び悩みましたが、二十周年に向け、より積極的な広報活動を広範囲に展開しようではありませんか。今年度は平成最後の年になりました。平塚MACにとりては、節目の準備の年です。是非、充実した一年にしましょう。そして、平塚MACを大いに活用し、元気に頑張りましよう。

過ぎし世を静かに思へ百年(ももとせ)も昨日のごとし。：島崎藤村  
今年度最後の「歩く会」、十二月十八日に伊藤博文邸滄浪閣前で、十四名が受付を済ませます。九時三十分

に女性ガイドにより、先ずは大隈重信邸へ。大隈は社交家で、当時はよく、「富士の間」で宴が開かれていたそうです。中庭を挟んで三方を見通せる「神代の間」、神代杉を豊富に使い書斎としました。また、滄浪閣が工事中のため、伊藤博文にまつわる資料や明治天皇下賜の絵が展示されています。驚いたことに大隈重信の

肉声を録音で聞くことが出来ました。樺の一枚板の廊下、百日紅の床柱などと凝った邸宅も四年後には古河家に譲渡される運命でした。東の陸奥宗光邸は「聴漁荘」と称しました。二間続きの明るくい応接間から日本庭園を見下ろせます。この時代にシャワー室も備えています。

若き日の横山大観が逗留して、庭の滝を描いた掛け軸が残ります。そこには陸奥の功績である「不平等条約改正」の資料や、当時の貴重な写真が豊富でした。

しかし陸奥が没後この立派な屋敷も古河財閥に譲渡されます。陸奥家は次男が古河創業主の養子となり東京の本宅跡(現古河庭園)も引き継がれています。

そして滄浪閣。小田原から別荘を移し、伊藤は本宅としました。英国風の洋館で、来客も多く政界の奥座敷と呼ばれました。

日本が朝鮮併合後、保護下の李王家皇太子の別荘として譲渡。戦後、時を経て西武系列となります。明治の元勳達の栄華は短く、この辺り一帯八千坪は古河家の財力により百二十

### 当面のスケジュール

- 1月26日(土)、27日(日) 平塚中央公民館 中央フェスタ
- 1月31日(木)、2月8日、15日、22日(金)、2月28日(木) 囲碁を楽しむ会
- 2月 4日(月) パークゴルフの会
- 2月14日、28日(木) パソコン勉強会
- 2月27日(水) MACうた仲間

年に亘り持ち堪えたのでした。今年、国へ移管し明治記念大磯邸園と成りました。新時代を築いた元勳たち、いま現世をどの様に見ていることでしょうか。

今込祐弘 記

飛翔編集員から

明けましておめでとうございます。

平成十四年一月からの新年号発行は、今月で十八回目を迎えました。これも歴代の会長並びに会員の皆様のご協力の賜物です。

今後とも編集員一同紙面の充実に努めて行きたいと思ひますので、会員皆様の一層のご協力をお願いし

次号の発行は

二月二十一日です